

令和5年度 第1回 早島支援学校 学校運営協議会 【記録】

1 日 時 令和5年6月6日(火) 13:30~15:30

2 会 場 岡山県立早島支援学校 大会議室

3 参加者 ・学校運営協議会委員10名(欠席:藤原委員・藤本委員)
花元PTA会長の代理で大島PTA副会長参加
・事務局(事務部長、副校長、各部教頭、主幹教諭、総括教務)9名

4 内 容

(1) 開会行事

①開会挨拶 <校長>

4月より新任として赴任。自己紹介。

本日は校内の参観あり。

校舎からは、隣接の南岡山医療センターや地域の早島町が見られる。山の上にある学校で、肢体不自由児童生徒はこのような立地の中、どうすれば地域とつながることができるかと悩ましいところである。ぜひ本校の子どもたちも地域とつながってほしいと考えている。

学校運営、地域連携にお力をいただきたい。

②委員紹介 <自己紹介>

③会長選任

中島会長を昨年度に引き続き選任。

④会長挨拶 <会長>

(2) 説明 <事務局>

①学校運営協議会実施計画について

・内容

・年間スケジュール

第2回、第3回の案内。

(3) 授業参観 <各部教頭>

訪問、派遣の説明(スライドを見ながら)。

訪問教育

週3回の授業。スクーリング、ICT活用により人とのかかわりを大切に。

派遣学級

南岡山つくし病棟。今年度も窓越しでの授業。先生とのやり取りでコミュニケーションを広げる

授業参観、学部案内

(4) 協議 <進行:会長>

①令和5年度学校経営計画について <校長>

資料は4ページから。前校長より引継ぎ。重点課題については後程教頭より説明する。

5ページ

I 教育課程、学習評価、ICT活用などについて。

多様な実態の児童生徒が在籍。(5)学校理解と地域貢献への情報発信の強化をしていきたいと考える。

2 子どもの安心安全、医療的ケアについて。

今年度45名が医ケア対象。うち2名が人工呼吸器使用。現在の医ケアの課題は保護者の負担軽減、帯同の短縮である。また緊急時の対応、災害時の対応として、南岡山医療センターや早島町と連携していく。

3 学校課題について

特に(2)、地域とともにある学校づくりにお力を貸していただきたい。早島町は様々な取り組みができる力がある。昨年度から少しずつコロナ前に戻し、新たな連携の1年にしたい。

【谷本委員】 コロナ前にというのは、具体的にどのように取り組もうとしているか。地域との交流の計画は？

【校長】 学校にとっては厳しい3年間。その中で教師は工夫をしてきた。ICTの活用は非常に進んだ。これまで進んできたものをさらに活用していきたい。毎日登校が難しい生徒には遠隔での授業をしている。地域に対しても、本校の児童生徒は簡単には出掛けられない。活動内容を考えながら、実際に出向く活動と、オンラインの活動を使い分けながらやっていきたい。

令和5年度学校経営計画について→承認

②重点協議事項について

<事務局>

「地域に開かれた学校づくり」

○学校支援に関する取組について

<担当教頭>

- ・進路学習、産業現場等における実習
- ・現場実習。前期の予定。卒業後を見越して、肢体不自由部では、1人で何か所も実習することも。2年生も実習を積んでいるところ。
- ・校内実習。Ⅱ類型の生徒。校内で経験を積み、校外へ出ていく。
- ・中学部。校内での実習の様子。
- ・文化祭に向けて。授業「職業」の中での製品づくり。文化祭で保護者へ販売。これまで制限はあったが、子どもにとって大切な授業だった。
- ・社会人講師授業。卒業生より講話を受けた。
- ・福祉の参観日。進路先事業所より、生徒の様子を見に来る。
- ・学校支援ボランティア
- ・朗読ボランティア。コロナ禍でメンバーも減っている中で、活動を再開していただいた。
- ・花植え体験ボランティアが、今年度新たに始まった。
- ・その他
- ・社会福祉体験ボランティア。中学生によるおもちゃ作りボランティアをいただく予定である。

○地域貢献に関する取組について

<担当教頭>

- ・学習の製品販売
- ・学習の製品販売。昨年度、地域で行った。今年度もできたらと思う。
- ・地域での学校紹介
- ・はやしま生涯祭り、早島町障がい者作品展へ参加した。
- ・地域の小中学校、高校との学校間交流、居住地校交流、はやしま特別支援教育連絡協議会
- ・早島小学校との交流。オンラインで実施。
- ・肢体不自由部高等部 3校交流。興陽高校はオンライン、関西高校は来校して実施。
- ・居住地校交流。後の交流にもつながった。
- ・はやしま特別支援教育連絡協議会。県内の病弱・肢体不自由に関わる担当者と本校をつなぐ。

○質疑応答

【三好委員】何かを一緒にしたいと考えるとき、いつ頃に相談すればよいか。

【副校長】すぐできることはやっていきたいが、内容によって次年度への実施を検討することも。

【中元委員】昨年度の販売ではたくさん売れ、好評だった。地域での生涯学習まつりでは、一つ一つの作品に個性があり、すごいなと感じた。子供たちが見に来られたら喜ぶのでは。

【西山教頭】小中学校の児童生徒と、お互いに見合うことができればと思う。

【谷本委員】先生方の働き方改革とICT活用の関係は。負担にならずできているか。

【佐宮教頭】朝礼掲示板、研修の動画視聴、高速コピー機の導入、ペーパーレス会議など。

【校長】情報共有やペーパーレスなど、本校は進んでいる。ICTの導入は、これまでは子どもの学習保障として。これからは働き方改革へ活用しなければと考える。学校単位では限界があり、県単位、国単位での取り組みがあるとよいと思っている。

【中島委員】昨年よりも活発に活動していると感じた。

(5) 各委員から

【名倉委員】実際に参観して学びになった。コロナ禍での様々な工夫がある。リモート授業で、教材の工夫も素晴らしい。また地域貢献への取り組みも、生徒にとってもよいこと。ぜひ続けてほしい。

【寺山委員】さみしい3年間を振り返り、初心に帰る参観であった。つながりが大切だと、コロナで学んだ。先生方はこの3年間どのように元気を出していたのか。我慢することなく。生き方を改めて感じた。

→子どもたちから元気をもらっている。これまでの工夫をこれからも活用していければ。

【中元委員】卒業の写真を見て、子どもの笑顔、表情、目の輝きで、お互い通じ合うことが大切。子どものために頑張ろうと思う。作品展示ではいろいろな方が見て、支援学校への関心が町内の人に広がればいいなと感じた。

【大島委員】地域貢献では、以前流通センターから協力をいただきバザーをしていた。地域の方に好評だった。今後同じように盛大にはできないが、学校に来てもらい、地域の方と一緒に、PTAで形を変えてできればと思う。

【三好委員】せっかくのつながりで、早島支援学校の生徒がNPO活動に参加できてよいのではと考える。

【谷本院長】ICT活用は医療でも必要と考える。学校の方が進んでいる。医療の現場ではリモートは進んでいない。医療従事者の確保が難しい状況。若い人への魅力の発信が必要。学校も同じ課題を持っているのでは。今日の取り組みの様子、先生方の生き生きとした様子を、若い教職を目指す人が増えるように。医療も学校も進んで行けたら。

【中島委員】学校では一人一台端末がある。医療では一台端末は整備されていない。市役所では一人一台整備されて、効率的に業務にあたっている。ICTの中での人とのつながりの大切さを感じる。コロナ後の新たな生活で、コロナがなくなったわけではない。昔がこうだったではなく、新しい生活スタイルを考えていくことが必要と感じる。

(6) 閉会行事

- ・ 次回の予定の確認。第3回は曜日の訂正。2/28(水)。
- ・ HP、Facebookでのこの会の紹介への了承願ひ。

※ この後、引き続き学校関係者評価委員会を行います。